midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

11月号の１枚：望星の森でも毎木調査がはじまっています

［巻頭言］ 実りの秋を体験、稲刈りに参加

豊穣の農作物には、上流の森林から滲みだしてくるミネラル分の豊富な水が不可欠だ

相模原市の小中学校・校長会長の金山先生は、早稲田大でも生命環境学の指導をしておられる。その関係で定期的に当会の「相模湖・若柳嵐山の森」の“緑のダム・体験学校”に学生を連れて参加されるが、また、ご自分で学生たちに農業体験を指導しておられる。

ずっと、それが気になっていたので10月14日（第２日曜日）開催の稲刈り実習に参加した。そこは、ＪＲ橋本駅からバスで約20分の距離。連なる相模崖線は鬱蒼とした森林帯を形成しており、その崖線を流れ降りる良質の水が相模川沿いの肥沃な農地をつくる。集合場所の「清流の里館・野外広場」には、250名程の学生や近隣の小中学生親子が集まっており、農業経営者の稲の育て方の基本思想を受けた後、すぐ側に広がるたわわに実る稲田で二人一組の稲刈りが始まった。それは収穫を喜ぶ秋祭りの雰囲気であった。

土質や天候など自然と調和しながら取り組まねば成しえない農業は、以前にも書いたが柳達永ソウル大学総長の「農民は神の領域の事業の代行者である」と言う教えをつくづくと思い出すのだ。余りにも個人主義・経済性一辺倒の富国策に走った結果が、世界各国の幸福度比較（法政大調べ）では、我が国は195国中92位、人口比対GNPでは19位だそうだ（国連公表、2010）。

豊穣の農作物には、上流の森林から滲みだしてくるミネラル分の豊富な水が不可欠だ。相模川の水は、富士山を源流とする山々峰々から供給されるが、東京都市大学の調査では、相模川に流れる地下水の窒素含有量が異常に高いそうだ。放置森林の窒素吸収力が弱いのではないかと、調査に入っている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2012.11

11月 4日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
11月18日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

10月7日（第一日曜日）

朝夕の寒気が身にしみるころとなりましたが、学生団体Forest Nova☆は今月も元気よく活動しています。しかし、１０月７日の小原本陣の森での定例活動は、あいにくの雨模様だったので、午前中は相模湖公民館で勉強会をすることになりました。午後は、天気が晴れたので当初の予定であった小原の里にある巨大ベンチの補修を行いました。

午前中の勉強会では、アル・ゴアの「不都合な真実」を緑のダム石村さんと川田さんと鑑賞しました。今までは表舞台に立つことはなかった環境問題についての本質を突く内容ばかりで、非常に興味深く面白かったです。放置林の森林整備という環境問題の一端を担うものとして、もっと視野を広げ、知識を深めていかなければと感じました。
その後、緑のダムの川田さんに森林インストラクターの資格取得の際の勉強に使った植物図鑑などを紹介してもらいました。私が好きな魚とは比べ物にならないくらい種類が多く、似たものが多いので覚えるのは大変だなと思いました。しかし、普段活動している嵐山の植物の名前くらいは覚えて、来てくれた人に教えられるようになりたいと決心しました。

午後の巨大ベンチ補修は、主にベンチの組み立てを行いました。ベンチに使う丸太はとても長くて重いのでみんなで持ち上げました。組み立てたベンチは、とても丈夫で、子供であれば２０人くらいは座れるほどでした。最後に、仕上げのニスを塗りました。大きいので全体に塗るのも一苦労でした。このベンチは雨にさらさなければ１０年以上持つそうです。１０年後といえば、私は２９歳なのでもう社会人になって子供を授かるかもしれません。子供ができたら、「このベンチはお父さんが若いころ作ったんだよ」と子供にベンチを見せてあげたいなと思いました。そして子供が大きくなったら、また補修をして、このベンチを代々受け継いでいけたらいいなと思います。緑のダムの方々から、森への想いや森林整備の技術を受け継いでいくのと同じように、私たち若い世代も、これから生まれてくる子供たちへ伝えていかなければならないことがあるということを深く深く実感した一日でした。

治田　世以良（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

10月21日（第三日曜日）

嵐山に向かう楽しみのひとつに山々の展望がある。今日、中央線の車窓からはうっすらと雪をまとった富士が丹沢山塊を従えている。その右に道志、大菩薩、奥多摩の山々。近頃は山に登る機会がぐんと減ったが、昔懐かしい山姿をぼんやり眺めているだけでも、思い出が蘇ってきて嬉しいものだ。

さてこの時期、ふだんの行いがよければ美味しいキノコに巡り合える。果たして嵐山にはありやなしや？「もし見つけたら教えてください」と朝礼時に勝手なお願いをひとつ。

参加は78名。今回は日大生物資源科学部の学生12名が加わる。目的は造林学実習。縦横20m余りの方形区を設けての毎木調査では樹種を同定し、樹高、胸高周囲を測っていく。丸山先生の指導のもと、学生たちは熱心に取り組んでいる様子。中にベニチャワンタケ（写真下）を採ってきてくれた学生がいて、朝のひとことが早くも功を奏した形。だが残念、これは食べられません。毒ではないけど。

お花畑班は畑に堆肥を運ぶ予定。昨年、堆肥置き場に集めた落ち葉が程よい具合に発酵・分解されているのだ。これを播けば来春の花盛りの期待大。しかし、堆肥置き場は別名「カブトムシ牧場」といわれるほど夥しい数のカブトムシの幼虫が生息している。どれもヘビー級サイズ。そのため、斎藤校長と戸山高OBとが力を合わせ、まずは幼虫の救出作戦とあいなる。

フォレストノバは材搬出と木工。午後は選木の勉強（講師は川田さん）。石村さん、川田さんは大日本山林会の方たちをご案内。森林整備班は径路整備。材を適当な長さに切り、雁が群れで渡るような形に配列する。こうすると雨が降っても土が流されにくいとのこと。

高井戸中学と望星高校は「望星の森」の毎木調査。植栽後、樹高５～６ｍになったトチノキの森の現状把握、また今後の管理方針を決める上での重要な作業だ。宮村さんの指導で作業は順調に進んでいく。生徒たちの歓声が森にこだまする。午後は「なみすけの森」の枝打ち作業。むかで梯子を立て掛けてはするするとのぼり、不要な枝を次々に切り落として行く。彼ら彼女らの頑張りが、以前は真っ暗で下草もなかった森をいきいきと蘇らせた。おかげで悪い見本林がなくなってしまったが…。

ところで、肝心のキノコは？　何人かのご協力でこの日集まったのはナラタケ、カワリハツ、ニガクリタケ、オオキヌハダトマヤタケ、ベニチャワンタケの５種。終礼時にそれらの紹介をさせて戴いた。食べられるものと食べてはいけないもの、キノコが縁の下で森の健康を支えていること等々。皆さん熱心に耳を傾けてくれた…と勝手に思っているのだが、さて。

内野　郁夫
（本会、理事）

[報告１]
湘南の森活動報告

9月14日はこの春植樹したヤマザクラ、イロハモミジ、クヌギ、コナラは害虫による食害やイノシシによる掘り起こしなどで枯れた個体もあるが会員によるつる切り、草刈りが月２回行われているので特に陽の当たる場所の個体の成育は良好である。今回も草刈り、つる切りが行われた。作業が終わって作業用の鎌は銘々が刃を研ぎ油を塗って収納出来た。会員間でヤブラン平と呼ばれている陽あたりの良い広場はこれまでヤブランが優占種であったが、今年はアメリカセンダングサなど陽性の植物に負けあまり目立たなくなった。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
ForestNova活動報告

「森でやらない森の勉強会」

Ｆｏｒｅｓｔ　Ｎｏｖａ☆では１０月６日に大学生による森の勉強会を開催しました。

この勉強会は、参加者同士が森について考え、互いにつながりを深め参加者もＦｏｒｅｓｔ　Ｎｏｖａ☆も森に対して行動をしようという思いで行いました。勉強会と言っても誰かから森に関する知識を教わるというものではなく、グループに分かれてあるテーマについて考え、話し合い最後に発表するというものでした。

当日は町田の公民館に跡見女子大学、東洋大学、法政大学、日本大学、千葉大学、明治大学、早稲田大学、麻布大学の学生総勢２４名が集まりました。普段は嵐山の活動でしか会わない人もいたので新鮮な気持ちでした。初対面の人もいたのでまず最初に、自己紹介とアイスブレイクを行いました。アイスブレイクではＦｏｒｅｓｔ　Ｎｏｖａ☆の１年生が、参加者が打ち解け合い気軽に話し合いで意見出来るように温かい雰囲気をつくってくれました。部屋

の雰囲気が和やかになったところで勉強会のメイン企画であるグループワークに移りました。

グループワークでは「森と海のつながり」、「森で出来る環境教育」、「木の利用」、「森の魅力」の４つに分かれて熱く話し合いが行われました。私は「森の魅力」についてのグループで、自分がいいなと思った森の写真を見せながらグループのみんなに発表しました。他の人も森の写真を持って自分が思い入れのある森を発表し合いました。一通り発表し終わったところで、日本の森は魅力もいっぱいあるけれど、やはり問題も多いのではないかという話になりました。地方には豊な自然や森が沢山あるイメージがあるけれど、人がいなくなってしまった場所では休耕田や人工林、竹林が放置されている。人が手を入れなければ壊れてしまう生態系もある。また地方と都市では森の現状が違う。都市では盛んに少ない緑を守ろうという流れになっているが、地方ではお金がない為に守りたい緑も守れないという現状がある。ではどうしたらいいのだろうか。そう考えた時に、やはり問題だけを伝えてもだめなのではないかとなりました。そこでそれぞれの発表で出た森の魅力、匂いや光、森が近くにないと気持ちが不安定になってしまう人がいることなどを全体で共有しました。今回のグループワークでは数値で測れない森の持つ効果を再確認することが出来たと思います。

森と海のつながりを考えたグループはハイキングならぬ川を上流から下流にくだるローキングという企画を考え、発表してくれました。普段なかなか出来ないことだと思うので話を聞いてとてもワクワクしました。森で出来る環境教育を考えたグループは「環境教育とは何なのか」、「森でしか出来ない事」を時間ぎりぎりまで話合っていました。答えは出ませんでしたが、環境教育は一言では語ることが出来ないので、これからも最良の環境教育とはどんなものなのかを考え続ける事が大切なのではないかと思いました。木の利用を考えたグループは、自分のこんな特技や能力が森に生かせるのではないかという事を考え、嵐山で間伐をして間伐した木を自分達で加工して木工するという企画を発表してくれました。普段は表面がつるつるに加工された木の製品を、地に根をはって生きている状態から製品にするまでの過程を実際に体験する事で森に対する思いや考えも変わるのではないかと思います。

森でやらない森の勉強会は今回初めて行う企画で、どうなるかとても不安でしたが参加してくださった方からは、「またこの企画やって欲しい」「次も参加したい」と言って頂けました。森でやらない森の勉強会は今回で終わりではなく、これから継続して行っていきたいと思います。そして一人でも多くの学生が森に関わることが出来るようＦｏｒｅｓｔ　Ｎｏｖａ☆も多くの方に支えられながら頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

吉崎　香代（Forest Nova）

[報告３]
VisionとWorkのコンビネーション

2012年10月21日、雲一つない秋晴れの日曜日に、「野田の樹木を見て歩こう会」の長澤典子さん、当会の元宿郁子さんと共に、長澤さんの高校時代の恩師である薄井先生のご案内で、NPO法人「緑のダム・北相模」の森づくり活動に初めて参加いたしました。

当日の参加者は約80名、その多くが十代、二十代の若者であることにまず大きな感銘を受けました。私たち三人は、石村代表理事、川田理事のご案内で嵐山林内を散策し、老若男女がそれぞれの場所で、林分調査や道の補修、間伐材の整理などの仕事に「自主的に」取組んでいる姿を拝見すると同時に、約40haの嵐山の林相の爽やかさと多様さに再び感銘を受けました。このような素晴らしい森づくりを可能にしているのは、森林所有者である鈴木さんのご理解によるものであることはもちろんですが、それ以上に素晴らしいのは、100年先を視野に入れた石村代表の構想力の大きさ、そしてそれを支える森林整備統括者川田さんの実践力であると思います。その場で即座に、本年のノーベル賞受賞者である山中教授のVisionとWorkのコンビネーションの素晴らしさを連想いたしました。

当大日本山林会も森林・林業の普及に携わって130年（明治15年創立）、これからもより広い観点に立って、民・産官学協働の森づくりに貢献できればと念じております。今後ともお付き合いのほどよろしくお願いします。

箕輪　光博
（大日本山林会、会長）

[報告４]
さがみはら環境まつり報告

さる9月30日にForest Nova☆は相模原市立環境情報センターにて行われた、“第8回さがみはら環境まつり”に参加しました。

“さがみはら環境まつり”とは「見つけよう、発信しよう、相模原のエコ力」をキャッチフレーズに、相模原市内で環境活動に取り組む市民・事業者・教育機関・行政が協働して運営を行い、相模原市内のさまざまな環境活動や取り組みを発信し、より多くの方に相模原のエコ力を知ってもらう環境のためのイベントです。

今回Forest Nova☆は“実際に森で使っている道具”、“木で作ったオブジェ”の展示を行いました。

“実際に森で使っている道具”の展示では、どんな活動を行っているのか、どんな考えで活動を行っているのか、森はどんな状態だったのか、など森で活動している雰囲気を道具の使用方法と共に伝えました。また、今回は“高井戸中学”も出展されていたこともあり、それも絡めて私たちが活動している森は、老若男女さまざまな方が「森を守りたい」という思いで活動されていて、でも月一回の活動で森を管理していくには多くの人の力が必要だということを伝えました。

“木で作ったオブジェ”の展示では、自分たちの活動している山から木を伐ってきて、それを使って木工作品を作り、人のために役立てることで“木の循環”、“森の循環”が成り立つんだということを聞いてもらいました。さらに、例えばもしかしたら今住んでいるところが森から遠くて、実際に森に入っていくことが難しくても、“国産材を使う”などの行動次第でみんなの力で森は守れるんだということまで知ってもらいました。

ブースに来てくれた方は相模原市の方が多かったこともあり、「今度森に行ってみるよ」、「木を買うときは国産材かどうかちゃんと見てみることにします」といったうれしい声を聞くことができました。

森を守るためには、“実際に森に入る人”も必要ですし、“森が近くにある地元の人”の協力も必要だと思います。それに加えて、この日本の大多数を占める“森から遠い人”の協力も必ず必要で、その人たちの協力があってこそ人工林の管理が行われていくのだと思いました。今後もForest Nova☆は森を守るために活動を続けていこうと思っています。

瀬戸 智大（Forest Nova）

また、体育館では、「宇宙と森のコラボレーション、間伐材の積み木でつくるはやぶさ」の展示も行いました。本会の積み木２万個を使い、小惑星イトカワからサンプルを持ち帰った工学実験機はやぶさを積み木で中学生が製作しました。今までの歴史的な建造物と違い、かつ宇宙空間で運用されるものを作ることにかなり戸惑った様子でした。元のスケールが小さいと細部の再現が難しく、特にセンサー類の再現に苦労していました。しかしながら、７月の講演会につづき、ここまで試作を重ねてきた甲斐もあり、なんとか昼過ぎには完成させることができました。今回は、はやぶさ本体に加え、打ち上げに使用したM-Vロケットも再現し、頭部にはレゴのはやぶさがおさまっています。完成までの様子は本会Webの定例活動報告にも詳細を掲載しています。そちらもぜひご覧ください。

そもそも宇宙と森がどのようにコラボレーションするか、まだ生徒たちも自分たちなりの答えには達していません。どちらもその中で我々が生かされていること、人間がすべてを理解することはできないこと、このコラボレーションのなかで、生徒たちに考えさせたいことはたくさんあります。今後は相模原市環境情報センターやJAXA相模原キャンパスの協力をもらいながら、次のイベントを通して、森と私たちとの関わりについて考える活動にしてきたいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

会員コーナー

●本会のNPO法人登録10周年を記念して会員のコーナーを開設しました。
皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●9月より新年度を迎えます。新規会員募集と継続会員募集を開始します。
お振込みは極力ゆうちょ銀行からお願いいたします。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

●来月号から会費を納入いただいた方のお名前をこのスペースにてご紹介してはどうかと経営運営会議で検討しています。
お名前の掲載を辞退される方、またニックネーム等での掲載も可能です。
会員コーナー専用メールアドレスまでご一報ください。

掲載例：正会員、石村黄仁（東京都）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版